

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190200216		
法人名	医療法人社団 やまもと		
事業所名	グループホームやまもと		
所在地	鳥取県米子市観音寺新町1-1-6		
自己評価作成日	平成26年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米子市宗像53番地46
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアに有効とされるアクティビティの充実を図るため、曜日でレクを変え実施している。嚥下リハビリ体操を毎日取り入れ介護予防に努めるように取り組んでいる。ご利用者は自由に施設内を移動され本人の好まれる場所で過ごしていただいている。ご家族様の訪問が頻回にあり、訪問時に家族・職員間の意見交換が行われ一体となった家庭的なホームとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

米子市観音寺新町1丁目住宅街の中にある開設1年目の1ユニットのグループホームです。管理者、職員は理念を基に尊厳を大切にしたいその人らしさを引きだし穏やかに生活できるよう支援が行われています。入所者の方も穏やかに過ごされ、会話や笑顔に溢れておられました。入所者の中には透析治療をされている方があり食事や生活など、個々に合わせた細やかなケアをされています。運営推進会議では地域の行事や自治会、公民館などとの交流が今後深まるような話し合いをされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にし、その人らしさを引き出した生活を提供している。	朝の申し送り時にケアの報告と理念を唱和している。開設より1年経ちサービスを振り返りながら、理念に沿った支援を行うよう職員全員で実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、清掃活動など地域の活動に参加している。	観音寺1丁目の自治会に入会している。地域の清掃活動に職員が参加したり、とんどさんには準備から参加され交流に繋がっている。グループホーム開設時の説明も丁寧にされ、周辺の住宅は若い世代が多いが快く受け入れてもらえた。地区の公民館祭にも声を掛けて頂いたが、車の乗り降りを含めや駐車場の問題で挨拶のみとなった。保育園、小、中学校との交流はこれからと考えられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症などについて相談があるときは応じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い利用状況、サービス提供の状況など報告し会議メンバーから意見を聞きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。家族代表、木子市長寿社会課職員、ふれあいの里包括支援センター職員、自治会長、民生委員などが参加される。入居者の状況報告、地域の交流、地域の行事の紹介、時期の感染症対策等意見交換が行われた。ホームにAED設置しているので必要時利用していただける体制を整えておられ、お話ししている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には事業所内での状況を随時報告し、運営推進会議に市職員及び包括支援センター職員にも参加していただきアドバイスをいただいている。	運営推進会議にも参加していただくなど、介護保険や困ったことなど市に出向いたり電話で相談し、アドバイスも頂いている。市の福祉課に入居者の相談もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員が理解し共有している。言葉の抑制についても職員同士意識している。玄関の施錠について危険防止のため様子を見ながら施錠行っている。早朝、夜間は職員が一人になるため施錠している。	身体拘束について管理者は常に口頭で説明し指導されている。身体拘束の内部研修は準備中であるが、接遇研修は外部講師を招き研修をされた。スピーチロックも職員同士意識しながらケアにあたられている。日中玄関前の道路は交通量が多いので家族に話し鍵をかける時もあることを了解してもらった。早朝、夜間は防犯、夜勤者が一人のため施錠されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の尊厳を大切にした接遇に心がけ、言葉使いなど日常の接し方から気をつけるよう職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要なケースについては随時職員が説明行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人及び家族に契約書に基づいて説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加を依頼し意見の反映に努めている。また、面会時には個別に意見を求めている。	家族面会時、ケアプラン説明時、請求書を手渡しするとき意見、要望を聞き、定期的なカンファレンスや職員会議で話し合いサービスに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて日々の職員の意見、提案を聞き運営に反映している。	月1回のミーティング、モニタリングの時に話し合い、毎日の申し送り時に意見、要望を聞くようにされている。管理者は法人理事長の往診時、医院訪問の時に意見等を話す機会を持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ・職員の声に耳を傾けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数、経験年数、能力に応じて研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流の機会はほとんどないが、管理者は認知症リーダー研修等にて同業者と交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、本人の生活状況を把握したり、グループホームの見学にて他入居者・職員と出会える機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談できる機会を設け入居後に望まれることを聴きとるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族の要望などを十分に把握しグループホームでの必要とされる支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者を尊重した関わりに努めており、人生の先輩として教をこうこともある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時に近況について報告したり、以前の生活ぶりなど何うなど相談し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人などの訪問時にはゆっくりと話ができる様居室などに案内している。	家族、友人の方の面会を多く、馴染みの関係の継続となっている。墓参りも家族の方に連れて行ってもらえる。入所当時は在宅時の理美容を利用されていたがホームの生活に慣れられ移動理美容を利用し馴染みの関係になってきている。近所の散歩の時など、近隣の方にお会いする時はご挨拶を交わすようにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員は周知し席の場所などトラブルの回避に努めている。レクを通して交流の場を設けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて家族の連絡し相談などに努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉を引き出し意向の把握に努め、本人の思いを大切にしている。	家族やアセスメントから意向、希望、生活歴、嗜好など把握している。日々の会話の中から思いや好きな食べ物などを聞き職員で話し合って支援にあたっておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に本人・家族と面談し、これまでの様子を詳しく聞き取り暮らしの把握を努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報の共有を図り、一人ひとりの生活リズムや現状の様子を捉えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にモニタリングにて職員間で情報を共有し介護計画につなげている。	ミーティング時に職員間で情報を共有し本人、家族から意向、希望を聞き介護計画を作成されている。モニタリング・評価は入所開始時は1ヶ月、その後は6ヶ月、更新時に行っていられる。状態変化があった時は計画の変更を随時行っておられる。サービス内容のチェック表も確認できました。	個人記録はサービス内容がより分かるよう工夫をされていかれると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人・生活記録以外にも介護日誌、職員間の申し送りノートを通して情報の共有を図ると共に各シフトに入る際引き継ぎを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急での受診が必要な場合など職員同士にて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入り地域の行事に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望にて法人医師がホームドクターとなり適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族が受信動向される際は不安なよう情報提供を行っている。	本人・家族の希望で運営法人の医師がかかりつけ医となっており、週1回往診があります。歯科、他科受診は家族が同行受診される。家族の不安がないよう情報提供、お薬手帳持参される。ホーム、家族、かかりつけ医は適切な医療を受けられるよう連携されている。急変事はかかりつけ医が対応される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の気づきや特変時など同法人の看護師に相談するなど医療面に関する連携により適切な対応ができている。必要時は法人医師の協力も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携しご家族様とも情報交換をしながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や本人の思いを確認し対応していくなど重度化、終末期についてはその都度検討していく。	入所時に重度化や終末期について管理者が口頭で説明されている。重度化や終末期についてその都度検討される。家族の希望があれば、事業所の医療行為が伴わない範囲での対応で看取りの支援をされる。急変時のマニュアルがあり職員にも周知してある。	重度化や終末期に向けた方針については文書化されると良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてマニュアルを整備し、周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練も含め年に2回の防災訓練を実施している。	年2回消火、避難訓練を行っておられ、契約している警備会社と共に避難訓練も行われた。夜間は職員緊急連絡網があり、警備会社も駆けつける。避難場所は2方向避難となっており、ホーム裏側、ホーム玄関前駐車場となっている。備蓄は水、食材、カセットコンロを備えている。	火災や災害時の避難の際、避難場所での利用者の見守りの協力を運営推進会議などで話し合い依頼につながれると良いと思います。

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄に関する支援については利用者の自尊心やプライバシーに配慮し声かけや対応を行っている。往診、面会に関してもプライバシーが保てるよう配慮している。	管理者の指導の基、人格の尊重、接遇を含め理解を深める話し合いを行われている。往診、家族、友人面会は居室で行いプライバシー保護に努められている。接遇研修は外部講師を招き研修をされた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方など本人の希望を表現できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが利用者のペースに合わせた支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを確認しながらおしゃれしていたき、整容・着衣の乱れ等はさりげなくフォローしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューなど利用者の好みや旬の食材を取り入れていく。利用者のできることを見極めながら準備、片付けを一緒に行っている。	メニューに利用者の好みを取り入れたり旬の食材を取り入れるようにされている。12月には鍋パーティーも行なわれ利用者にも好評であった。野菜を切るなど準備や後片付けなど出来ることを職員と共に行って頂かれている。職員も利用者の横に座り一緒に食事し楽しく会話をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し、水分量の少ない方に対しては好みの飲み物に変更し摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせ自分でできる方には声かけ・見守りを行い、支援の必要な方に関しては介助を行っている。誤嚥性肺炎・感染症の防止のため夕食後にうがい薬を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄パターンを把握し職員間で情報を共有し記録に残している。可能な限り布パンツを使用していただき、パットなども個々の排泄を考え使用している。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、各居室のトイレで排泄支援を行っている。可能な限り布パンツを使用されパッドなど個々の排泄習慣を基に使用を考え支援を行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量を把握し乳製品・食物繊維など食事の内容にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴ができるように対応している。ゆず湯など昔からの習慣なども大切にしている。	2日に1回午後入浴が行われている。二人介助が必要な方もある。リフトバスも用意され状態に合わせた入浴を行えるようにされている。拒否の方には声かけを変えたり対応を柔軟にすることで入浴頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただくよう、毎日のレクに取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、内容については把握できるようにファイルに綴っている。内服管理マニュアルに添って誤薬のないよう手順を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割を考え、洗濯物を干したり置んだり、食後の片付けなど自発的にしていただけるよう働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況に合わせて近隣へ散歩に出かけたり、気候の良い時期にはできるだけ外出の機会を持つように取り組んでいる。	季節の天候に合わせ近隣の散歩に出かける。ドライブで皆生、大山などへ出かけられたり、近所のスーパーなどに食材を買いにでかけるなどの外出支援が行われている。初詣は車椅子の方も一緒に出かけられ外出を楽しまれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持はされている方もおられ、日用品など必要な物を購入と一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の携帯電話を所持され自ら電話をされている方もおられる。また、電話がかかってきた時などゆっくりと話ができるよう声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり季節の飾りに工夫している。流す音楽も馴染みの曲を流している。音の大きさなどは不快にならないよう注意している。	玄関ホールには小石に顔を書いた作品が展示してあり訪問された方を和ませている。居間は食事が出来る場所とテレビや雑誌を見る場所に広く取られており日当たりも良く食後などにくつろぐ事が出来る工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを利用したり独りになりたい時は他利用者と離れた場所の椅子に座り過ごすなど居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力にて寝具・テレビ・タンスなど馴染みの物や好みの物を持ってこられくつろげる部屋作りになっている。	寝具、テレビ、タンス、小物など馴染みの者を持ち込まれ過ごしやすい居室になっている。介護ベッドが必要な方には、利用者の負担軽減のためにホームのケアマネが相談にのり自費レンタルも紹介されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは見守り支援している。		